

豆本ワークショップ 「ハードカバー豆本作り」

お好きな紙を選んで、自分だけの小さな豆本を作ませんか？

日 時：11月19日（日）午後2時～4時
対 象：大人
定 員：10名（先着順）
材料費：800円（当日集めます）
講 師：松下寛子（hokori）氏（日本豆本協会会員）
持ち物：はさみ、カッターナイフ、カッターマット
定規、筆記用具
申込み：11月4日（土）本館窓口：9時30分～、電話受付：10時～
問合せ：電話（0566）41-0894



休館日

10月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

■ は本館の休館日です

10月のギャラリー

『しかけ絵本展』

期 間：10月4日（水）
～27日（金）

※ギャラリーの展示は17時までです。

編集後記

子どものころから絵を描くことが好きだったのですが、最近は絵を全く描かなくなってしまいました。学生時代の油絵道具はもう処分してしまいましたが、ボールペンや色鉛筆でなにか描いてみようかなあ、と秋らしくなってきた空を見上げて思う日々です。（お）

けやきどおり通信（No.289）

編集・発行 碧南市民図書館

〒447-0057
碧南市鶴見町1-70-1
Tel：（0566）41-0894



けやきどおり通信



2017年10月 ～NO. 289～

美味しい本



秋といえば、思い浮かぶのはなんでしょう。スポーツ？ 芸術？ それとも行楽でしょうか？

なかでも魅惑的なのは『食欲の秋』ではないでしょうか。とはいえ、健康やダイエットのことを考えるとちょっと…と思う人も多いと思います。ならば、美味しいものがたくさん出てくる本を読んで、『読書の秋』にしてみませんか？

ただし余計にお腹がすいてしまう危険もありますので、十分ご注意ください！

MENU

「お～い、丼」

ちくま文庫編集部/編 筑摩書房（B914オ）

五木寛之、伊丹十三、角田光代ら作家や著名人たちの“丼”への熱い想いを紙面にぶつけたアンソロジー。

「世界の機内食」

イカロス出版（687セ）

世界各国のエアラインが提供する機内食を、クラス別にカラー写真で紹介。上空1万メートルで楽しめるグルメ本。

「未来の食卓」

ジョシュ・シェンヴァルド/著 講談社（498.5ミ）

“2035年にはどんなメニューが並んでいるのか”。そんな疑問からジャーナリストである著者が、全米中の食材市場や食の関係者に取材を敢行！ 果たして未来の食卓に並ぶ食べ物とは？ 究極のメシ・ノンフィクション。

「つまみぐい文学食堂」

柴田元幸/著 角川書店（930ツ）

『白鯨』（メルヴィル/著）の揚げパンを始め、英米文学に登場するさまざまな食べ物をメニュー仕立てで紹介しながら、登場人物や作品について語る。ただし、すべて美味しいものばかりとは限りませんのであしからず！

「作家の口福」 恩田 陸/ほか著

朝日新聞出版社（B596サ）

“口福”とは、おいしいものを食べて感じる幸福感のこと。人気作家20人が、各々4話ずつ食にまつわるエピソードを披露する。続刊の『作家の口福 おかわり』もどうぞ。

『面白南極料理人』

西村 淳/著 春風社 (297.9オ)

標高 3,800m、最低記録気温はなんとマイナス 79.7℃！

世界一苛酷な観測地帯と言われる「ドームふじ南極観測所」。観測隊として赴いた著者をはじめとした9人の生活とは？

『南極料理人の使いきりレシピ』

西村 淳/著 光文社(596ナ) 暮らしの本

南極料理人が指南する“食べ残しゼロ”のレシピ集。

『食堂のおばちゃん』

山口恵以子/著 角川春樹事務所(Fヤ)

佃にある「はじめ食堂」は、二^ふ三と姑の一子のおばちゃんふたりが切り盛りする、美味しい家庭料理を食べさせてくれる定食屋だ。訪れる客たちとの人情味あふれるストーリー。作中に出てくる料理のレシピつき。シリーズに『恋するハンバーグ』もあります。

『ヒカルの卵』

森沢明夫/著 徳間書店(Fモ)

限界集落からさらに山奥にわけいった森で、“たまごかけごはん”の専門店を開くことを決めた二郎。ムーミンに似ているから、あだ名はムーさん。おひとよしで能天気なムーさんの突然の行動に、友人や集落の人たちは反対するが…。愉快な面々たちの笑って泣ける物語。



『卵のふわふわ』

宇江佐真理/著 講談社(Fウ)

憧れの同心であった夫と結婚して6年目。心のすれ違いから離縁を考えるおのぶだったが、それを扶^{たす}けてくれるのは、食道楽で心優しい舅の忠右衛門と、口は悪いが情に厚い姑のふでだった。黄身返し卵、淡雪豆腐に水雑炊、「喰い物覚え帖」に映し出される心模様の行き着く先は、さて。

『和菓子のアン』

坂木 司/著 光文社(Fサ)

進学も就職も決まらないまま高校を卒業したアンは、ひょんなことからデパ地下の和菓子店「みつ屋」でバイトをすることになった。食べることは大好きだが、和菓子のことなどなにも知らないアンだったが、店の面々や訪れる客とのかかわりの中で、次第に奥深い和菓子の世界を知ることになり…。和菓子に関連した謎解きも興味深い1冊。続編に『アンと青春』もあります。

『まるまるの毬 (いが)』

西條奈加/著 講談社(Fサ)

「南^{なんぼしや}星屋」は、江戸麹町にある菓子舗。ここでしか買えない全国の銘菓を目当てに訪れる客で繁盛している。店を切り盛りするのは、主である治兵衛と出戻り娘・お永。その娘のお君は店の看板娘だ。だがこの一家はある秘密を抱えていて…。菓子と人情と人の業が織り成す7つの連作短編集。

『キャベツ炒めに捧ぐ』

井上荒野/著 角川春樹事務所(Fイ)

小さくて美味しい惣菜屋「ここ家」は、各駅停車の電車しか止まらない町の商店街にある。そこで働くのは 60 代の女性3人。悩んだり、迷ったり、たまらなく愛しい人生を描く。

『厨房ガール！』

井上尚登/著 角川書店(Fイ)

名門料理学院の落ちこぼれ生徒である理恵。彼女には2つの秘密があった。ひとつめは、合気道の達人であること。ふたつめは、元警察官であるということ。料理よりも推理が得意な理恵と仲間たちが、珍事件に立ち向かう！

『風のベーコンサンド』

柴田よしき/著 文藝春秋(Fシ)

東京の編集者生活から抜け出した奈穂は、いまは寂れ気味の高原で一軒家のカフェを開店し、地元素材にこだわった料理の数々は評判を呼んだ。店を訪れる客たちのなかには、様々な事情を抱える者がいるが、実は奈穂自信もある問題を抱えていて――。



『それからスーフのことばかり考えて暮らし』

吉田 篤弘/著 暮らしの手帖社(Fヨ)

映画好きのオーリックくんが越してきたのは、路面電車がのんびりと走る町だった。越してきたばかりのころ気になったのは、やたら見みかける白いインクで「3」とだけ印刷された茶色い袋。どうやら商店街の外れにあるパン屋のものであるらしい。無性にサンドイッチとスープが食べたくなる1冊。

『禁断のパンダ』

拓未 司/著 宝島社(Fタ)

新進気鋭の料理人である柴山幸太は、出席した結婚披露宴で人間離れした味覚をもつ老人、中島と出会った。その翌日、神戸ポートタワーで男性の刺殺死体が発見され――？「ビストロ・コウタ」シリーズ第1弾。



『甘いもんでもおひとつ』 田牧大和/著 文藝春秋(Fタ)

『ショコラティエの勲章』 上田早夕里/著 東京創元社(Fウ)

『タルト・タタンの夢』 近藤史恵/著 東京創元社(Fコ)

『気まぐれ食堂』 有間力オル/著 東京創元社(Fア)

『あつあつを召し上がれ』 小川 糸/著 新潮社(Fオ)



貸出中のときは、予約をどうぞ！！